

平成22年 3 月期決算 説明資料

株式会社 力ネカ

平成22年4月30日(金)

もっと、驚く、みらいへ。

KANEKA

目次

▪ 業績概要	P.	3
▪ 主要指標	P.	4
▪ 売上高	P.	5
▪ 営業利益	P.	6
▪ 為替変動の影響	P.	7
▪ 海外売上高	P.	8
▪ 営業外損益	P.	9
▪ セグメントの状況	P.	10
▪ 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	14
▪ 業績予想	P.	15
▪ トピックス	P.	17

業績概要

(単位：億円)

	平成21年 3月期	平成22年 3月期	前年比		平成22年 3月期 前回予想
			増減額	増減率	
売上高	4,496	4,125	△ 371	△ 8.3%	4,100
営業利益	76	175	99	+130.2%	170
経常利益	58	163	105	+179.6%	150
当期純利益	△ 19	84	103	-	75

主要指標

	(21/3)	⇒	(22/3)
・ 売上高営業利益率	1.7%	⇒	4.2%
・ 売上高経常利益率	1.3%	⇒	4.0%
・ 売上高当期純利益率	▲0.4%	⇒	2.0%
・ 1株当り当期純利益	▲5.45円	⇒	24.78円
・ ROE	▲0.7%	⇒	3.4%
・ ROA	1.3%	⇒	3.8%
・ 総資産	4,185億円	⇒	4,329億円
・ 純資産	2,495億円	⇒	2,572億円
・ 自己資本	2,433億円	⇒	2,494億円
・ 自己資本比率	58.1%	⇒	57.6%
・ 1株当り純資産	717.15円	⇒	735.17円
・ 有利子負債	722億円	⇒	636億円
・ D/Eレシオ	0.30	⇒	0.25

売上高

(単位：億円)

	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
<セグメント別>			
化成品	923	796	△ 128
機能性樹脂	670	611	△ 59
発泡樹脂製品	692	544	△ 149
食品	1,251	1,198	△ 53
ライフサイエンス	399	392	△ 7
エレクトロニクス	336	359	23
合成繊維、その他	225	226	1
計	4,496	4,125	△ 371

<単独・子会社別>			
単独	2,722	2,407	△ 315
国内子会社	2,565	2,401	△ 164
海外子会社	850	716	△ 134
消去	△1,641	△1,400	242
計	4,496	4,125	△ 371

営業利益

(単位：億円)

	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
<セグメント別>			
化成品	△5	19	23
機能性樹脂	30	88	58
発泡樹脂製品	13	50	37
食品	38	89	51
ライフサイエンス	59	45	△14
エレクトロニクス	△9	△69	△60
合成繊維、その他	12	15	3
消去・全社費用	△62	△61	1
計	76	175	99

<単独・子会社別>			
単独	22	38	16
国内子会社	48	103	55
海外子会社	25	58	33
消去	△18	△24	△6
計	76	175	99

為替変動の影響

【期中平均レート】

	平成21年 3月期	平成22年 3月期	騰落率
U S \$	100.71	92.89	+7.8%
E U R	144.07	131.18	+8.9%

【通貨別影響額】

(単位：億円)

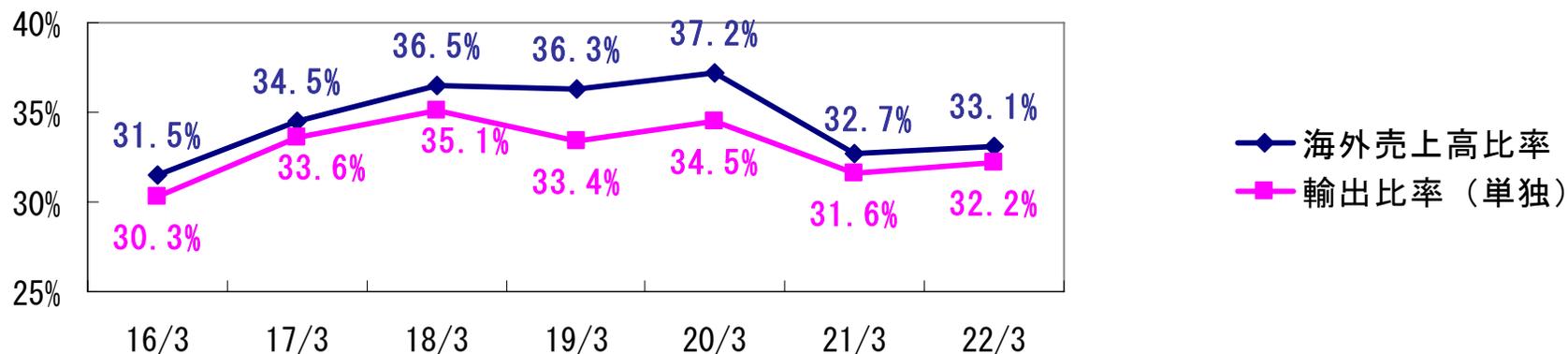
	売上高	営業利益
U S \$	△73	△33
E U R	△39	△13

為替変動1円当たりの営業利益影響額

US\$ = 4億円 EUR = 1億円

海外売上高

海外売上高比率・輸出比率（単独）推移



地域別海外売上高 (単位：億円)

地域	H21/3	H22/3	増減額	増減率
アジア	542	599	57	+10.6%
北米	309	245	△ 64	△20.6%
欧州	460	369	△ 91	△19.7%
その他	162	150	△ 11	△7.1%

営業外損益

○ 営業外損益

(単位：億円)

	前期	当期	増減額
収 益	33	29	△ 4
費 用	△50	△41	10
(収 支)	△18	△12	6

[内 訳]

(単位：億円)

	前期	当期	増減額
金融収支	2	3	1
その他	△20	△14	5
(内 固定資産除却)	△9	△13	△ 4
(内 為替差損益)	0	2	2
(その他)	△11	△4	7

セグメントの状況

○化成成品事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	923	796	△ 128
営業利益	△5	19	23

塩化ビニール樹脂は、国内需要の低迷が続いたが、輸出市況の回復に加え原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正に注力し、減収ながら増益。塩ビ系特殊樹脂は、国内需要が低迷した一方、海外需要が増加し、コストダウン等による収益改善も寄与し減収増益。か性ソーダは、国内需要が低迷するとともに海外市況が大幅に悪化。

○機能性樹脂事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	670	611	△ 59
営業利益	30	88	58

モディファイヤーは、アジア市場の需要が回復したものの欧米市場の需要回復が本格化せず、日本市場も低迷し減収となったが、製品差別化力の向上及びコストダウン等の収益体質強化により増益。変成シリコーンポリマーは、日本・欧州の建築関連需要が低調に推移し、減収となったものの、コストダウン等の収益体質強化により増益。

セグメントの状況

○発泡樹脂製品事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	692	544	△ 149
営業利益	13	50	37

発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードは、国内市場の需要低迷により販売数量が減少したことに加え、ポリスチレンペーパー等の事業撤退の影響もあり減収となったが、徹底した製造コストダウンと経費削減に取り組み、収益性の確保に努めた。ビーズ法発泡ポリオレフィン、米国事業の撤退により大幅な減収となったが、日本・アジア・欧州市場の需要確保とコスト合理化により収益性は改善。

○食品事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	1,251	1,198	△ 53
営業利益	38	89	51

食品は、消費者の節約・低価格志向の影響を受けて需要が伸び悩み、競争激化により販売数量・販売価格ともに下落したが、コストダウンや新製品の拡販により収益の回復に注力した。

セグメントの状況

○ライフサイエンス事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	399	392	△ 7
営業利益	59	45	△ 14

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大し、増収増益となった。一方、医薬バルク・中間体については、販売数量が前年を下回り、減収減益となった。機能性食品素材は、高機能品の販売数量が増加したものの、競争激化に伴う既存製品の販売価格の下落により減収減益となった。

○エレクトロニクス事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	336	359	23
営業利益	△9	△69	△ 60

液晶関連製品は、エレクトロニクス製品の市場回復に伴う販売数量の増加により増収増益となった。超耐熱性ポリイミドフィルムは、需要の回復がみられたものの販売価格の下落により減収減益となった。太陽電池は、国内の販売数量が前年より増加したものの欧州の需要低迷と競争の激化に伴う販売価格の下落が響き、減収減益となった。

セグメントの状況

○ 合成繊維、その他事業

(単位：億円)	平成21年 3月期	平成22年 3月期	増減額
売上高	225	226	1
営業利益	12	15	3

合成繊維は、世界的な景気低迷や円高基調及び原燃料価格の上昇の影響は受けたものの、高付加価値品の販売数量増と経費削減による収益確保に努め、増収増益となった。また、その他事業は、エンジニアリング子会社の解散等により減収となったものの増益となった。

設備投資・減価償却費

○設備投資

(単位：億円)

	平成21年3月期 実績	平成22年3月期 実績	平成23年3月期 予想
設備投資	340	243	350
減価償却費	272	262	314

○主な設備投資

(単位：億円)

平成22年3月期実績		平成23年3月期予想	
太陽電池生産能力増強(+80MW)	67	太陽電池生産能力増強(+80MW)	58
ユーティリティ関係更新等	9	食品(物流整備/生産能力増強)	14
医薬バルク・中間体生産能力増強	5		
医療器生産能力増強	3		

研究開発費

(単位：億円)

平成21年3月期 実績	平成22年3月期 実績	平成23年3月期 予想
172	163	180

業績予想

○連結

(単位：億円)

	22年3月期実績		23年3月期予想		前年比(通期)	
	上期	通期	上期	通期	増減額	増減率
売上高	2,018	4,125	2,200	4,500	375	+9.1%
営業利益	80	175	100	230	55	+31.4%
経常利益	72	163	90	210	47	+28.5%
当期純利益	40	84	50	110	26	+30.9%
営業利益率	4.0%	4.2%	4.5%	5.1%	—	—
経常利益率	3.6%	4.0%	4.1%	4.7%	—	—
当期純利益率	2.0%	2.0%	2.3%	2.4%	—	—

上記の見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで合理的であると判断したものです。したがって、見通しには様々な不確定要素が含まれており、実際の業績はこれら見通しと異なる場合があることをご承知おき下さい。

業績予想

【セグメント別】

○売上高 (単位：億円)

	23年3月期予想	
	上期	通期
化成品	415	850
機能性樹脂	340	690
発泡樹脂製品	260	510
食品	570	1,150
ライフサイエンス	215	455
エレクトロニクス	275	595
合成繊維、その他	125	250
合計	2,200	4,500

○営業利益 (単位：億円)

	23年3月期予想	
	上期	通期
化成品	9	20
機能性樹脂	48	100
発泡樹脂製品	22	42
食品	37	75
ライフサイエンス	31	75
エレクトロニクス	△19	△13
合成繊維、その他	3	6
消去・全社費用	△31	△75
合計	100	230

【23年3月期：前提条件】

為替： 90円/US\$、125円/EUR、国産ナフサ： ¥50,000/KL

上記の見通しについては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで合理的であると判断したものです。したがって、見通しには様々な不確定要素が含まれており、実際の業績はこれら見通しと異なる場合があることをご承知おき下さい。

トピックス

○インド共和国における新会社の設立

— グローバル展開を加速するため、同国での市場調査・販売活動を強化 — 4月23日

○国内住宅市場向け薄膜系太陽電池 新タイプの販売を開始

— 化粧スレート瓦専用タイプ「SOLTILEX(ソルティレックス)」 — 4月20日

○快適性と省エネ性を大幅に向上した新たな住宅工法を開発

— 外断熱・二重通気工法®に除湿機能を加えた「ソーラーサーキットリフレア™」 3月11日

○健康補助食品(サプリメント)「グラボノイド」をはじめ新たに3製品を本格販売

— 3月1日よりユアヘルスケア(株)にて通信販売を開始 — 3月1日

○業界初、デュアル硬化タイプのUV・湿気硬化型接着剤を新たに開発

— 携帯電話等の電子機器用途に積極展開し、3年後の売上高20億円を目指す 3月1日

○押出発泡ポリスチレンボード事業の譲受けに関する契約締結について 2月10日

○健康補助食品(サプリメント)「還元型コエンザイムQ10」を本格販売

— 2月1日よりユアヘルスケア(株)にて通信販売を開始 — 1月29日

○電気絶縁性と熱伝導性を有した新規「絶縁熱伝導性樹脂」を開発

— 熱対策材料第三弾として、LED照明などの熱対策用途に積極展開 — 1月18日

kaneka